平成３０年度第２回相生市総合教育会議会議録

日　　時	平成 30 年 12 月 21 日（金）13 時 30 分から 15 時 00 分
会　　場	市役所　３階　議員控室
出 席 者	谷口　芳紀　　市長 浅井　昌平　　教育長 萩原　喜樹　　教育長職務代理者 小西　　毅　　教育委員 栗原　英子　　教育委員 西田　香子　　教育委員
説 明 員	越智　俊之　　企画総務部長 玉田　直人　　教育次長（管理担当） 坂本　浩宣　　教育次長（指導担当） 宮崎　義正　　管理課長 山本　哲也　　学校教育課長 番匠　真由美　生涯学習課長 桑名　正彦　　生涯学習課主幹 小西　まこと　体育振興課長 横山　和彦　　人権教育推進室長 森田　敏雄　　管理課副主幹（書記）
傍 聴 者	なし

１　開会

２　市長挨拶

各委員には平素より相生市の教育行政にご尽力いただき誠に感謝している。

今年１０月１１日から、相生市においても新教育長就任に伴う、新たな教育委員会制度に移行している。教育委員会制度改革の目的は、責任の明確化、透明性の確保による議論の活性化、緊急事態への迅速な対応があげられている。制度改正があったが、執行機関としての教育委員会の位置付けや、教育委員様の役割の重要性は何ら変わらない。しかしながら私は、この制度改革を契機により一層、各委員の活発なご意見をいただき、相生市の教育施策の充実に繋げていただけるよう期待している。委員の皆様にはこれまでの豊かな経験に基づく幅広い視点で相生市の教育行政に引き続きご尽力をいただけるようお願いする。一方で、市の財政状況は厳しさを増してきているが、将来の相生市を担う子供たちの教育支援については、今後も継続させていただきたいと考えている。

この総合教育会議は、今後の相生の教育についての大きな方向性を決定する会議であり、非常に重要な場である。各委員の忌憚の無い意見交換や今後に向けての調整をさせていただきたいと考えているので、よろしくお願いする。

３　協議事項

（１）相生市の教育に関する重点施策について

ア　平成３１年度の重点施策について

管理課長

平成３１年度の重点施策については、相生市教育振興基本計画を基本に、平成３１年度から推進していく重点施策を各課から７事業の提出をさせていただいた。

（管理課より機構順に事業概要説明）

管理課　　「小・中学校学習環境充実事業」
学校教育課　「ワンピース・イングリッシュ・ＡＩＯＩ事業」、「学校園読書活動充実事業」
生涯学習課　「第４次相生市子ども読書活動推進計画の策定」
体育振興課　「スポーツセンターグラウンド土壌改良工事」
人権教育推進室　「ケータイ・スマホ教室」、「「特別な教科　道徳」の完全実施」

谷口市長
　読書活動が２つの課で別々にあるのか。

教育長
　「第４次相生市子ども読書活動推進計画の策定」の中に「学校園読書活動充実事業」も含まれている。

教育次長（管）
　「相生市子ども読書活動推進計画」については、学校園だけではなく、全般的に家庭、地域、ボランティア団体等も含めた計画となっており、「学校園読書活動充実事業」については、学校教育分野における活動事業である。

西田委員
　読書の時間は、小学生が３０分以上というのは、１日当たりであるか。

学校教育課長
　はい、１日当たりどれくらい読書をするかという設問について、子ども達が答えたものである。

西田委員
　その中にはスマホなどの読書は入らないのか。今は、スマホで読む方もおられるが。

学校教育課長
　デジタルでの読書かどうかを尋ねた設問ではなかったが、デジタルでの読書も答えているものと考える。

教育長
　今年は「西播通運文庫」も寄付をしていただき、幼稚園の本も増えた。

栗原委員
　「ワンピース・イングリッシュ・ＡＩＯＩ事業」の事業内容で、教室等環境整備でイングリッシュルームの整備とあるが、英語活動のための部屋の整備ということでよいか。

学校教育課長
　学校の中では、英語教育のための部屋を確保しようという学校もある。その中で、発音を子どもたちによく聞かせるためスピーカーを整備したり、教材を提示したりするための整備を行うものをあげさせていただいている。

栗原委員

ＦＬＴと連携した授業づくりとあるが、小学校ではＦＬＴは全学年に入られていると思うが、全学年の担任の先生方とカリキュラムづくりについての話をされているのか。また、年度初めに１回か、学期ごとか、単元ごとか、どれくらい話をされるのか。

学校教育課長

ＦＬＴと連携した授業づくりでは、小学校の新学習指導要領において、３、４年生では年間で３５時間、５、６年生が７０時間という設定がされ、３年生から６年生の学習においてのカリキュラムを作っていかなくてはいけない。担任とＦＬＴの役割分担の打ち合わせをし、計画づくりを行うこととなるので、４月の初めに計画が決まることとなる。実際の役割分担になると、学期ごとかその都度かということは、学校での運用により変わってくるが、そのカリキュラムをよりブラシュアップすることも含めて、進めていければと考えている。

栗原委員

３、４年生は英語活動ということで副読本があり、５、６年生は教科書がある。相生市はワンピース・イングリッシュとして幼稚園から行っている。そのつなぎとなる、１、２年生はどのように対応されるか。

教育次長（指）

ＦＬＴは民間会社より派遣をしてもらっており、１、２年生は年間１０時間程度、指導してもらっている。こちらサイドから低学年の指導に合った教材を指定して、指導してもらっている。３、４年生については、文部科学省が資料を示しているので、カリキュラムづくりについては、あまり検討することは必要ないのではないかと考えている。ただ、平成３２年度からは検定教科書に変わってくるので、検定教科書の採択が来年度行われている。その採択が終わってから、役割分担をどう行っていくかを３１年度内に計画していくように考えている。

教育次長（管）

それでは、３協議事項（１）ア　について、ご了解いただいたということでよろしいか。

市長及び教育委員

了解

教育次長（管）

ただいまいただいたご意見等を尊重し、平成３１年度の事業を進めていく。

４　報告事項
（１）学校施設空調設備整備計画について
（２）新学習指導要領について

（担当課より事業概要説明）

萩原教育長職務代理者
　新学習指導要領について、議案にも学習指導要領の変遷があるが、だいたい１０年おきに、時代に応じて子どもたちの能力をどのように伸ばしていくのかという指針というものだと思うが、プログラミング教育というものが出てきた。それについて、どういう風に子どもたちに能力を付けていくものなのかということを、もう少し具体的に教えていただきたい。

学校教育課長
　プログラミング教育について、主に総合的な学習の時間の中で実施してくことになる。また実際のところ、論理的思考の良さを身に付けるということなので、他の主要教科の中でも実際に身に付けていくことができるものであると考えている。文部科学省の方からは、パソコンを使って、コンピューターの中でどのような判断が行われているのかということを、子どもたちにとらえさせて、論理的な処理の良さを理解させることが求められているので、実際の教育活動の中では、例えばパソコンに対する命令を体験的に組み立てていくことで、パソコンがどのような動きをしていくのかということを、ドローンなどを使い、命令を出すことで機械が動きを変えていくということを体験的に学ばせていく方法などが、発展的な学習活動として考えられるかと思っている。

萩原教育長職務代理者
　プログラムを組んで、実際にそのような体験をさせていくということが究極の目標か。

教育次長（指）
　このプログラミング教育というものは、まだはっきりしておらないものであり、今年、来年度に実践例をよく学びながら、準備をしていきたいと思っている。
　学校教育課長が申し上げた、プログラムを行いドローンが動くという事例もあるが、ドローンが動くことだけがプログラミング教育ではないと考えている。まだ曖昧だが、論理的に考えていく力を身に付けていき、結果的にそういう動きが生まれるということが体験できればととらえている。

萩原教育長職務代理者

テレビでもそういったニュースが出ているが、今、次長が言われたように、機械を動かすというような方ばかりに流れるのではなく、きちっとした論理的な思考ということが大切だと思う。それから、那波小学校でプログラミングの学習会をされていたものはどういったことをされていたのか。

教育次長（指）

先ほどご説明させていただいた、ドローンを飛ばすことを、講師を招いて６年生の児童が体験をさせていただいた。

そのようなこともひとつの方法であると、先行的に取り組んでいるが、今後は他の学校でも行っていき、経験を積みながらどれが望ましい学習方法であるのかを探していきたいと考えている。

谷口市長

毎年、災害のような暑さと言われる中で子どもたちもかわいそうだが、クーラーは、どれくらいで整いそうか。

管理課長

現在、設計委託を行っている。工期の短縮であるとか、効率的に設置するために設計の委託をしているが、なかなか全国的な問題で、機器が揃うかということと、夏までに作業日数を確保する余裕がないということを考えると、集中的に行わないといけないということなので、夏休みまでには難しいということを設計業者は言っている。

他市町における情報を仕入れたところ、同様であり、平成３１年度内に実施できればいいという考え方でいるようである。

教育長

平成２３年度に、近隣に先駆けて各教室に扇風機を付けていただいた。それにより、体感温度が３度から５度下がっており、結構な効果はある。確かにクーラーの設置は遅くなるが、他の地域と比べると扇風機が備わっているということで、多少はしのぎやすい状況にあると考えている。それと、保健室などの大切な部屋には既にクーラーを設置しているので、いざという時の緊急避難的な対応もできるため、今回についてもじっくりと腰を据えて行うことで考えている。そのため、平成２３年度に扇風機を付けていただいたことはこの時点でも助かっており、今後においても扇風機を使い分けすることで効果が上がると考えている。

教育次長（管）

報告事項「（１）学校施設空調設備整備計画について」、「（２）新学習指導要領について」については、ご了解いただいたということでよろしいか。

市長及び教育委員

了解

５　意見交換

教育次長（管）

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっている。

これからの相生教育について、まず、各教育委員より所感をお聞かせいただき、市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えている。

萩原教育長職務代理

はじめに、「まちづくりはひとづくり」のスローガンのもと、市長にはとりわけ教育の充実のため、いろいろな面で配慮いただいておりますこと感謝申し上げる。

私がこの教育委員という職に就いて２年余りが過ぎたが、その間の思いやこれからの相生市の教育に関して私の所感を述べさせていただく。

まず、教育委員会の現状についてだが、今年度の施政方針のもと、市教委の各課はよく努力されて、工夫のある施策の展開ができていると思う。また、教育現場や教育施設と委員会との関係、連携もスムーズにうまくいっていると思う。

次に、教育現場の様子についてだが、学校訪問やオープンスクール等に参加させていただき思うことは、相生の子どもたちは落ち着いて、しっかり学習に取り組めているということである。今年度から教科化された道徳教育や新学習指導要領の実施で、今後さらに拡充される英語教育についても、確実な成果が上げられているように思う。特に、相生市では以前から先行実施してきた英語教育の取り組みを基盤に、これからもグローバル化に向けて幼稚園から小中学校まで一貫性のある取り組みを行う必要があると思う。

教育環境については、施設の修理や必要な物の設置については、その都度対応していただいているところであるが、熱中症対策として、国からも指摘があった学校園のエアコンの設置について、来年度からの導入がスムーズにいくよう、お願いしたいと思っている。

また、新学習指導要領の実施に伴い、デジタル教科書やタブレットなどの電子教材・教具の導入が今後、必要にならざるを得ない時代になってくるのではないかと思う。教育は不易と流行、今までの積み上げ、財産を大切にしながら今の時代に合ったスキルや機器の導入も必要になってくると思う。そういうことも考え、これからも相生市の教育の充実を図っていきたいと考えている。

小西委員

最近、国会でスーパーシティという話があったが、これまでの規制を取り払い、無人のバスを走らせるなど、そういった構想が出ている。萩原委員がおっしゃられたように、デジタル教材が出てきて、それをどんどん活用していき、ロボットなど無人のものがどんどん広まっていくと思う。そのＡＩは、問題があってどのように解決していくかを処理することは、すごく早いと思う。人間がやるべきなのは、何が問題であるのかを取り上げ、それをどう解決するのかという、最初と最後をやらないといけないと思う。これをするためにも、私は国語力、しゃべる力で議論したり、討論したりする力が大切だと思う。

今、読書の活動もあるが、もっと本を読んで、議論する場が増えてというようなところを学校教育でも取り入れていただきたいと考えている。ＡＩと国語力は相反するものであるように見えるかもしれないが、使い方というものは同じであると思っている。そういったものを使う前後は人間がやらないといけないと考えると、この国語力という部分は、ぜひ今後もやっていくべきだと考えている。

栗原委員

言語として学ぶ英語はひとつの目的だが、その英語を使って何を表現していくのか、というものが自分の中に育っていないと何も伝えられないと思う。この間、子どもから「先生、翻訳機があるからいいやん。」と言われたが、翻訳機は相手の顔を見てごめんなさいの指示を出すのか、どうすればいいのかはわからない。やはり自分で判断をしなくてはならない。そこに心、または国語力が育っていないと、使いこなせない。単に英語だけというのはおかしい。英語で何をしゃべるのかが自分の中に出てこないといけないので、文法を学習したり語彙力を広めることは当然だが、それを使って何をするのかというものをしっかり育てていかないと、単に英語と言ってもだめである。私も読み聞かせをして感じるのは、国語力が大きいと思う。本を読めば、想像力が広がる。相手の心を想像する。相手の立場を考える心を育てることがすごく大切だと思う。グローバル化と言うが、やはり相互理解を深めるところが一番大きい。そこで英語をやりとりする手段として持っておけば強いと思う。

相生市では、他の地区よりも早く英語に力を入れているが、ずっと過去からの積み重ねが教科として、成績として評価されるだけではなく、もっと英語を使って何をするのかというところも育てていけるような環境があればいいなということを思う。また、前と関連して、小学校で５、６年生が教科化となると、勉強だけで終わってしまうのではなく、例えば家に帰ってから地域にいても、何か英語を使える環境があればいいと思う。なかなか学校の授業から離れて英語を使う環境はないが、自分たちの英語力を試せる環境があればいいと思う。例えば昔は中学校で英語を使うことが得意な子が入るクラブがあったが、今も小学校からでも英語が得意な子が入れる環境があったらいいと思う。

西田委員

伝統文化の方であるが、相生市の伝統文化のレベルはすごく高いと思っている。いろいろな団体に属して活動をされている方も多いと思うが、私がいろいろと模索しているのは、する人もだが、日本舞踊、古典舞踊を観る人がどんどん高齢化して減っていっている。そのため、それを少しでも小さなうちに、代表的な日本舞踊だと、藤娘などが浮かばれるかと思うが、最低限観せる機会があればうれしいと思う。もし、そういった機会があれば、言っていただきたい。

また、日本文化に親しんでいただくには、浴衣など和服に親しんでいただければと思う。親しんでいただくことで思うのは、みなとの女王に浴衣を着ていただき、踊っていただいてもいいのではと思う。

和服でいうと、この間、ノーベル賞受賞者の方が和服でスピーチをされたのが、すごくいいと思った。

谷口市長

私は、「まちづくり」の基本は「人づくり」にあると考え、これまで教育施策に重点を置いた市政運営を進めている。そういったなかで、相生市の今後の教育について、私の考えを２点申し上げる。

１点目は、子どもたちが夢や希望を抱き、学ぶことができる環境を整備していただきたいと考えている。平成３１年度は、小学校で新学習指導要領の全面実施への移行期間の最終年度になる。「伝統文化に関する教育」、「道徳教育」、「外国語教育」を充実させていくということで対応に大変ご苦労されると思うが、教育委員会と学校現場の先生方が連携を取りながら遺漏のないよう進めていただけるようお願いする。

また、学校教育施設の整備についても、充実させていただくようお願いする。昨今の異常気象で子ども達の学習環境が大幅に変化している。学校施設の環境整備については、適切な時期に実施していただくようお願いする。特に、幼稚園、小中学校の空調については、整備に向け９月議会に実施設計費用の補正予算を計上させていただいた。工事については国の交付金の関係もあるが、子ども達のために喫緊の課題として取り組んでいく。

２点目は、なぎさホール、体育施設などを活用した芸術文化、体育の振興をお願いしたいと考えている。

なぎさホールには開館以来、非常に多くの方々に来館していただき、相生市の賑わいの拠点となっている。この賑わいを将来に渡り持続していただけるような創意工夫をお願いする。また、なぎさホールでの芸術文化の振興を図っていただくため、幅広い世代の市民のご意見をお聞ききしながら、より一層魅力ある事業展開を図っていただくようお願いする。

また、体育の振興に関して、市民がスポーツを楽しみながら健康づくりを行うことができるよう、施設や設備の改修を進めていただきたいと考えている。さらに事業内容についても工夫などを行っていただき、市民がより一層参加しやすい事業となるよう知恵を絞って実施していただくようお願いする。

私は、市政運営を行ううえで、教育施策の充実は極めて重要だと考えている。これまで各教育委員のご尽力により、相生市では先進的で充実した教育の取り組みを行っていただいていることをありがたく思っており、今後も引き続きご協力をお願いしたいと考えている。

これまでの各委員の教育行政に対する取り組みに、衷心よりお礼申し上げる。

谷口市長

これだけＡＩ技術が日進月歩で進んできている中で、どのように対応していくかということは、非常に難しい。

小西委員

最近の子どもたちは、授業で分からないことがあると、先生に聞くのではなくて、家に帰ってタブレットで調べているようだ。検索すると似たような問題が出てくる。そうすれば次に問題が解ける、学習できたかどうかを確認することができるという風になってきている。

多分、彼らの中には、タブレットやスマートフォンなどが生活の中に当たり前の生活になっているので、それを解決にたどり着くのに問題提起とか、もっとうまく思考回路を使っていただければと思う。

タブレットなどはうまく使いこなせるが、人間関係で解決が下手になってしまうなど、困ってくる。

栗原委員

日本語でもコミュニケーションが足りない。思考力がデジタル化というか、右か左しかなくて、その間にいろいろと気持ちがあるというところに至らずに、自分の中に結論を出してしまうという子どもたちがいる。例えば、あの時誰かがノーと言ったけれども、ノーでない気持ちもあったり、相手の気持ちを推し量ったりする力が足りなくなってきているから、少しのことでノーとか否定的なことを言われると、そのまま受け取って相手をそういった目で見てしまう。そうするとすごく殺伐とした感じになってしまう。私も英語で本を読んで感想を聞くが、その感想が薄っぺらく感じて、そうじゃないと思う時がある。子どもたちの中にそれと違う心もあると思うが、それを文書として表現する力が足りないのかと感じることがある。学校の中で解決するだけではなく、家庭でも地域でも解決する場はあると思う。

大人もそうだが、人と関わる機会が余りにも少なくなってきている。地域の活動もだんだん減って、交流の場もどんどん減ってきて、一人の世界になってしまっているので、昔がいいという訳ではないが、新しい交流の場が生まれてもいいような気がしている。

デジタル化に逆らうのではなく、それにプラスして、これまで培ってきたいいものを生かせればいいと思う。

谷口市長

伝統文化など、本物を見せるということはいいのではないかと思う。私が小学生の時には、先生が京都に連れて行ってくださり、美術館の展示を見せて下さったことがあった。今の先生方は忙しすぎてそのような暇もないかもしれないが、私は舞踊にしろ、絵画にしろ、本物を見せることは大事だと思う。

栗原委員

この間、なぎさホールで落語をやられていたが、落語を子どもたちに聞かせてあげてもいいと思う。

また、だいぶ前に、大ホールでやった舞台で相生小学校の子どもが昔の子ども役で出たことがあったが、その時に着るものを、その時代設定の服装を探し回って昔の普段着の着物を着せてやったが、子どもたちも「こんなものを着るんや」と知るきっかけになったりしていた。手に触れるということはいいことだと思う。

西田委員

少し前では、おじいさん、おばあさんに連れられて踊りのお稽古をしましょということがあったが、今はおじいさん、おばあさんが踊りを観たことがない世代になったので、子どもたちにそういった機会があればと思う。

萩原教育長職務代理者

今も本物に触れる機会というか、学校に呼んで来ていただいて、そういったミュージカルや落語や古典に触れる機会はある。

西田委員

遠くに行っていただかなくても、踊りであれば観せて差し上げられるので、ボランティアでさせていただく。お琴とかはされていると思うが、日本舞踊はあまりないと思う。

教育次長（指）

今の学校の様子を少し申し上げさせていただく。本物に触れることの必要性というものが、その時に見たことが印象に残って、後々の人生にも波及すると思っている。

例えば落語の話があったが、全ての学校ではできない。その学校の近くにそういう人材がおられれば、声をかけていただくこともある。落語であれば矢野小学校や相生小学校では、生の落語を聴かせていただく機会を持っている。それから芸術鑑賞も学校ごとに年に１回、劇団やいろいろな方に来ていただいて行っている。これも費用がかかることもあるが、保護者から経費を集めたり、また創意ある学校園事業も進めさせていただいているので、それを活用して今の子どもたちに何を見せることがいいのか、考えて、お呼びしていることがある。

ただ、先ほどのＡＩもやらないといけない、外国語もやらないといけないと、外部からいろいろなお声をかけていただいているが、学校の方も何が子どもたちに必要なのかということを絞り込みながら、無理のない範囲でさせていただいているところも実情である。

また、昨年、なぎさホールを使用させていただいて、いい音響と照明の中で音楽鑑賞会を実施させていただいている。これも生の音楽を聴くことができている。このプログラムについても、また来年に向けて考えていくので、なぎさホールもうまく活用させていただいたり、西田委員のおっしゃっていただいたこともあるので、うまくコラボレーションをしていきたいと思っている。

谷口市長

拡大充実していただければいいと思う。

それと、新聞にもあったが、体力面で兵庫県の子どもたちは劣っていると話があったが、その点はどうであるか。

教育次長（指）

市長もコスモストークで相生の子は柔軟性が劣っているとおっしゃられていたが、改めて見ると、兵庫県の子どもは全国と比べて、全体的に劣っており、相生の子どもだけではなく、兵庫県としては劣っている中で中学校は底上げができたということが載っていた。

相生の方は、持久力があるというところを持ち味として体力を小中ともに伸ばしていきたい。弱点となっているのは柔軟性であるので、そこもリズムジャンプなどを取り入れながら、底上げをしているので、新聞に載っていた兵庫県での底上げの結果が、相生にも出てくるであろうということを励みにやり続けていきたいと思っている。

谷口市長

タブレットの話があったが、タブレットの授業などはしているのか。

学校教育課長

全員の子どもがタブレットを使っての授業というものは、まだ環境的に整っていないところであるが、グループに１台ということであれば、小学校ではその環境は整っている。

谷口市長

グループというと、どういった形であるか。

学校教育課長

４人もしくは５人を１グループとして、班になっての活動である。そのような形であれば可能な台数が、各校に整っている。

現在は、どの授業で活用するかといったことを研究しているところで、今後、グループ学習でのタブレットの活用も検討しているところである。

教育次長（管）

今後の相生市教育に関し、貴重なご意見をいただいた。

今回のご意見を踏まえ、事務局として関係部課とも協議を行い検討させていただき、更なる取り組みを進めさせていただきたいと考えている。予算措置が必要な事項については、今後の予算に反映できるよう努めてまいりたいと考えている。

浅井教育長　閉会の挨拶

平成３０年度第２回相生市総合教育会議を終了